



田舎莊子

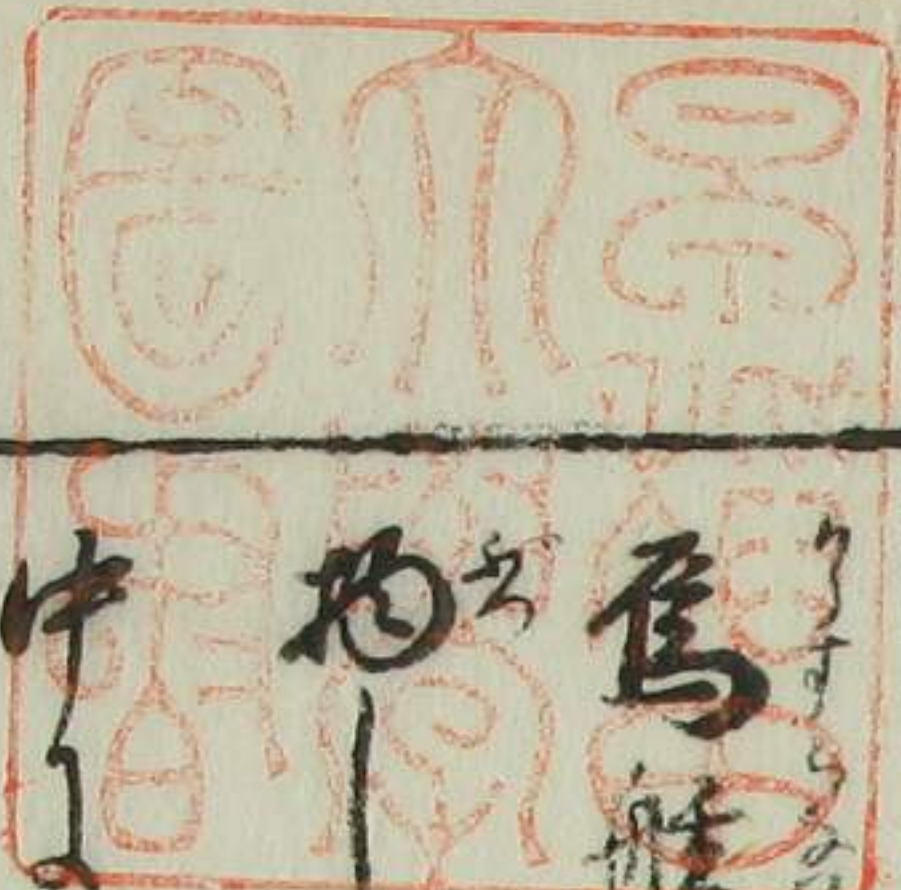
外篇
四

御

持
遠 13
326
8



門 遠 13
 號 126
 卷 8



田舎莊子外篇卷之四

鵲鳥戲海

鵲

鵲鳥戲海と云ふは鵲鳥水中に入て莫と云ふは

鵲

鵲鳥戲海と云ふは鵲鳥水中に入て莫と云ふは

鵲

鵲鳥戲海と云ふは鵲鳥水中に入て莫と云ふは

鵲

鵲鳥戲海と云ふは鵲鳥水中に入て莫と云ふは

鵲

鵲鳥戲海と云ふは鵲鳥水中に入て莫と云ふは

鵲

鵲鳥戲海と云ふは鵲鳥水中に入て莫と云ふは



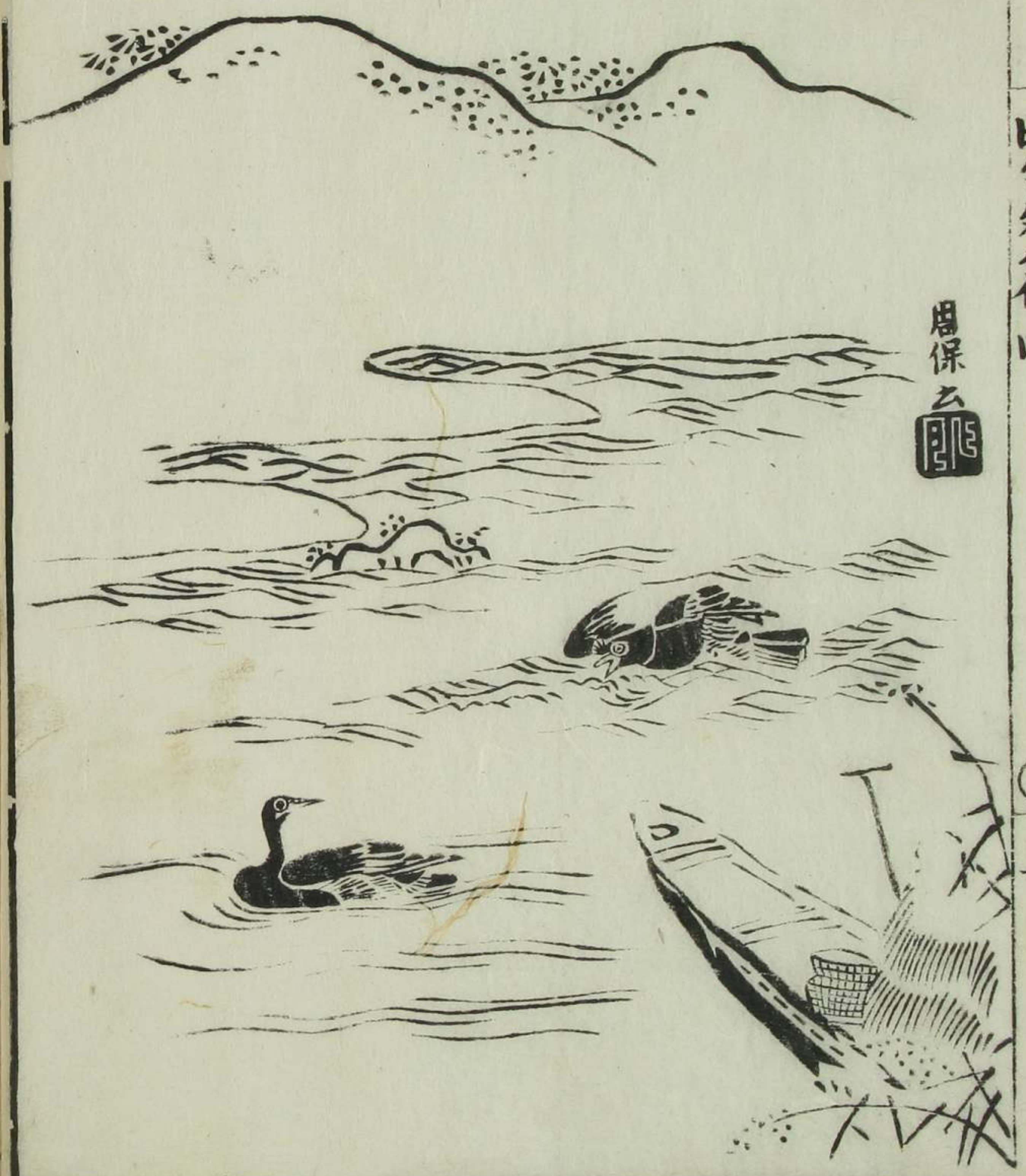
うづめて見たり天乃物紙せむはるるく
の食ひりてそふくに食と来ふヤと喰へ
たまふある方物紙死する事ゆゑに食
天乃人を殺むといふ事をゆゑに食
たふたふは天のゆゑと云ふは世に水に
魚と云ふ鳥ハもは棲るこふの鳥といふ
食ひるまゝいり物として食ふといふ
事あるなりと菓ハ勿論もふ似合ふぬ食

として牛馬此肉までと云ふい島の物紙
なり何一人の縁先は千てあつたといふ
まを見てはぬとみ食ふ鳥人と思ふもの
あるふ物目これ巧なりと持て人と思
まると天れゆゑぬ盗賊とすは犬腹の物
なりそれゆゑに人としてみるに
あるは物なりといふは水に
おひる物なりといふは水に

天^{てん}乃^{なり}と^とひ^ひく^く所^{ところ}唯^{ただ}汝^にの^のふ^ふわ^わに^に人^{ひと}も^もま^ま
知^しり^り孟^{まう}子^しは^は曰^い人^{ひと}之^の養^{やう}心^{しん}也^{なり}莫^も善^{ぜん}於^{より}寡^{くわ}欲^{よく}欲^{よく}を^を
百^{ひやく}苦^く比^ひ中^{ちゆう}少^{せう}と^と徧^{へん}れ^れ根^{こん}人^{ひと}の^の又^{また}欲^{よく}苦^くし^しむ^むら^ら
多^た欲^{よく}し^しり^り甚^{しん}し^しと^とい^いれ^れ多^た欲^{よく}あり^{あり}者^{もの}ハ^ハ常^{じょう}と^と
心^{しん}忙^{ぼう}し^しく^くし^して^て内^{ない}靜^{じやう}し^しる^るこ^この^のた^たま^{たま}く^く
も^も欲^{よく}し^しる^る所^{ところ}と^とひ^ひて^て快^{かい}ふ^ふと^とか^かり^りハ^ハ又^{また}も^もれ^れと^と
求^{もと}め^めて^てや^やま^まし^しと^と欲^{よく}ハ^ハ令^{しやう}彼^か賊^{ぞく}室^{しつ}乃^{なり}欲^{よく}の^のこ^こし^しの^の
ら^らと^と小^{せう}事^じし^して^てと^と求^{もと}て^てや^やま^まし^しと^と思^{おも}ひ^ひて^てた^たれ^れ

う^うら^らの^のい^い皆^{みな}欲^{よく}あり^{あり}世^よ常^{じょう}ら^ら欲^{よく}し^しけ^けし^し事^{こと}ハ^ハさ^さく^く
や^や欲^{よく}し^しけ^けし^し事^{こと}ハ^ハ常^{じょう}ふ^ふあり^{あり}な^なら^らぬ^ぬ
事^{こと}と^と知^ちかり^りる^る百^{ひやく}之^の法^{ぽう}物^{ぶつ}と^と言^いふ^ふて^て巧^{こう}を^を
極^{ごく}め^めと^と求^{もと}め^め世^よと^とひ^ひて^てた^たり^りて^てや^やま^まし^しと^と
生^{せい}涯^{えい}欲^{よく}れ^れら^らふ^ふ使^しふ^ふて^て安^{あん}し^し心^{しん}あり^{あり}あ^あつ^つひ^ひ
ら^らり^り或^{ある}ハ^ハ憂^{うれ}ひ^ひ或^{ある}ハ^ハ人^{ひと}と^と怨^をみ^みる^る欲^{よく}より^{より}生^{せい}
じ^じハ^ハ試^しして^てあ^ある^る人^{ひと}ハ^ハ寡^{くわ}欲^{よく}あり^{あり}也^{なり}ハ^ハの^のと^と
求^{もと}め^めと^とい^いふ^ふは^はた^たり^りて^て事^{こと}は^はさ^さり^りぬ^ぬ富^ふ貴^きを^をれ^れん^ん

周保云



人とあも貪^{おん}賤^{けん}るれどふう^ふ安^{やす}むと恨^{うら}む
 ともういふもあもれ^れせ涯^え事^{こと}にて
 持^もて老子^{らうし}曰^い知足^{ちそく}者^{しや}常^{じやう}富^ふと少^{せう}は貪^{おん}賤^{けん}よ
 所^{しよ}うと^と心^{しん}ハ王公^{わうこう}の富^ふよりも泰^{たい}あり
 聖^{せい}賢^{けん}の至^し言^{げん}信^{しん}より^{より}これ学^{がく}同^{どう}知^ち辨^{べん}と待^{たい}
 む我^がう^う試^して^て知^ちりや^やと^と中^{ちゆう}に^に我^がれ
 凡^{なん}人^{じん}ハ欲^{よく}と^とひて^て乃^なに^にあ^ある^る義^ぎ不^ふ義^ぎに
 毎^{まい}へ^へも^もう^う只^{ただ}欲^{よく}より^{より}不^ふ義^ぎゆ^ゆと^とひて^て樂^{らく}と

しく欲れぬやうく〜ひまをときくは馬鹿
 改してまふ〜う〜びと挙て云く精れ
 する〜ふむ精れこれ〜知て世るてまんの
 上は上は立ッ人の目と暗〜走〜う〜あ
 移成それ〜とまふと見て〜ふ〜あ〜あ
 ま〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 和歌〜して見や〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 と〜と精の〜と〜と馬水紙の〜と〜と

まれ〜と精が〜と〜と〜と〜と〜と
 しく水とのびて世る〜と精〜と〜と〜と
 は馬〜水の〜と〜と〜と〜と〜と
 こび〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 との〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

ひざりかえんらく
 鶴鶴知恩

杜鵑かきまひざり〜温ぬるて田いづみのえりのの〜と〜と〜と

ふと事といひつゝのり終は口痛く如て人
 氣と名今ゆきわたりては物もく見えり
 常より怪ても申さずさへばせぬは
 股は遠くは改りて補ひ多き事あるを
 補へ一改りてもいふや補ひれぬ事なる
 牙の痛はあつとえとくさやうありとて
 てすしは終日泣き叫わりとありとて
 欠りてつるまんの金も事な方きいゝ
 欠りてつるまんの金も事な方きいゝ



周保

わきまらと怖るいなかうううてうさずなれ
と心改めてはかつぬきとくきく
くと昔よりうけ我が心と繋結して其
明とそこうすものこひ道と改めてこれ
ふうひ言はうかますう我が心
かかてきうううさず昔日れ悪と人
知て耳きくはと唱へたひき此禍及
と今日我うかかて何の傷むううん

死しに及およぶとてやとういふ事なれどもあま
限くさむともうへ改あらたまるもあや、今いま人ひとの道みち
と悔くはふ事とあれども改あらためて好このまると悔くはむ
ゝ心こころちるに読よみは悔くはふ事とて胸むねといふ免めん
久ひさらぬ事と我われ度たびもかりひ出でて同どう業ごうと
瘡かさとかきとりぬの事わねどもそのほどすこと
ぬきハ流ながれり、忘わすれ又またりのんゝあてた旨よろこと
快かつむゝ紙かみちるは恨がみ家けにも懺ざん悔げといふ事あり

六祖の壇經うへ具し満ざりわやうらと懺悔
 て仏祖に慕ふ誓ひ今また心付く著る可れ
 悪念妄念とぞとぞぐめどもとくく悔ひ
 て肉を改め今より別のやうなりて悔ひ
 悔ひの意に今れ仏教のあつては只前此意
 と白状するもれ懺悔の罪と滅せんとす
 懺悔するもろく悔ひするもろく悔ひする
 此出家元もいふゆゑ大なる劣後ひとなは

十王爲守后回状 聖言

娑婆世界最良且唐の憲宗此時韓退之
 の悔れこころもや者あり佛骨の表と書
 て憲宗の誓ひにわひ潮が流れて終
 配不し腐死せり死するの目所を
 獨りこ途川のまゝりに便所とて汚らふ
 へ大木のやうにちまうとて娼女で喝いて
 あり裸とせしとけりく退之もとつて

いふ所のところありあられ我ハそれやど此
 悪人といふと仁義の事と學て人といふ
 ところ潮別と立一内ハ縣といふ悪人といふ
 人と云ふれよ我米文と書て水中に投
 ちて其縣もゆつてそそぬ人ともうに
 立それ人を怪びてありまて地獄のかと
 ちぬ文育野郎の岡魔王といふやうにも
 云をて極悪人といふとハ上と云ふは此の事と

洞へかうにからまて入て何とぞ毎
 の夕光と粧ひて入て燭火頭て宿りか
 了それよりと備前徳利よりやえんと流て
 枕よりと酒にまてぬて下飲でり
 きれ退之といふより大ぬぬもいなるぬ
 此をありとてふけくもいけあふ人
 利ちやえんとおけり三橋の奇とたりひ
 出して

三つめは、はくわくを、かゝる
 ことと、おもふれの、じと、おもひ
 是れ、うゑ、まゐる、の、地獄、も、まゐる
 なり、といふ、娼、曰、や、お、釈迦、の、いふ、い
 う、いふ、地、と、極楽、も、いふ、いふ、も
 まゐる、退、く、か、と、かゝる、いふ、いふ、ま
 二、つ、も、違、ふ、して、矢、う、に、わ、く、り、つ、つ、
 といふ、娼、の、曰、まゐ、といふ、所、は、な、い、まゐ、
 といふ、娼、の、曰、まゐ、といふ、所、は、な、い、まゐ、

年、うゑ、いふ、れ、と、世、中、うゑ、まゐ、いふ、まゐ、
 客、と、うゑ、いふ、退、く、まゐ、いふ、娼、の、いふ、いふ、
 お、うゑ、か、と、いふ、娼、の、曰、まゐ、といふ、娼、
 世、の中、といふ、まゐ、いふ、まゐ、いふ、まゐ、
 かり、れ、中、うゑ、いふ、娼、の、曰、まゐ、
 娼、の、曰、まゐ、
 世、と、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 娼、の、曰、まゐ、いふ、まゐ、いふ、まゐ、

もふらへ酒もくれざりたれは退之洞々
わさむじ世のわらわりのひや
今一盃ものむくもへ那
煙かー枝煙しては勢お酒をわりのひや
小うくはすつすはわさぬと
わらうくはすんわらは
退之今ハ根と心
酒は飲のくもも名ぬをー

酒うわくとわさるへ
それよりおまのりてさるり此大
おれと酒乃勢ひわていのわがは
やわりしはやく岸ちくちくして
しほさおとれ目成りく廣
御奇紙わりのひや

くももろとわさるへ
親とおほえり三葉川

毎^まり^りり^りた^たな^なこ^こあ^あや^やの^のこ^こ何^いふ^ふと^とれ^れん
 死^いは^はつ^つの^のこ^こ地^ち獄^{ごく}の^のま^まる^るん^んハ^ハあ^あん^ん業^{ごう}障^{じやう}れ
 雲^うが^がり^り電^{でん}あ^あん^んち^ちり^り新^{しん}来^{らい}れ^れ七^{しち}者^{しや}一^{いつ}人^{にん}
 う^うめ^めう^うり^り回^{くわい}転^{てん}し^して^てう^うり^りし^しが^が退^{たい}之^しが^が傍^{はう}
 お^おう^うり^りま^まか^かよ^よい^いう^うけ^けり^りな^なひ^ひう^う韓^{かん}退^{たい}之^し
 う^うて^て申^{まを}し^しま^まは^は我^{われ}安^{あん}樂^{らく}よ^よう^うり^りし^し時^{とき}ハ^ハ反^{はん}
 古^これ^れま^まい^いと^とあ^あん^ん々^々文^{ぶん}字^じと^とが^がり^りあ^あん^ん
 人^{にん}の^の世^よに^にと^とあ^あん^んて^て書^かし^しう^うり^り君^{きみ}に^に取^とり^りま^ませ^せと



まうてはなは信令の城りろく川もろ
よふまふろくや坊主の池と溪中念仏
とややそれともくは帷子一枚くそ
まともくかろくやとと境界はゆるに
まゝとと安楽くそわろく事なれ
はふろく家なとよいさくかろくそや
れ知て

三連川上水流清 死出山頭雷連車

舟是無心垂世事 黄泉過客一身輕
退之足下新作面々くゆるねれとそ
只文字とくくろくろくこいやくあ
くそ鬼神と感てりり事ハくろくはれ
じり衛山くそあはれり時ふかろくろくに
なてあろく流も先とそろくろく一盃飲
て詩とけり神よ藤くそあふくそろくろ
あやろくあはれろくハ我ろくゆめくそい電と

やうて見せびゆらうとゆらうと
もつて葛城の古寺と川車と

死のうしよのうにきるいおつてハ

もつとこれの火のうと見れ

ふ神細文のういんゑの暗天のうぬ

禁のうとちり柳の六張のううふ

死のうのうえのうより見とせハ阿鼻

等活叫喚焦熱のハ大地獄のうたう

牛の頭のうととととくうううう人

ととととととととととととととと

ちりもやもやの活計と古徳のう

ちりもいふちりんととととととと

ととととととととととととととと

ちりもいふちりんととととととと

ととととととととととととととと

誰と云ふれハ答はるる退之又い

思ふよ。仏性ありや又亡やと。思ふもが
れ。縁より成は退之のひありて八南を
磨盤空裏もむるも天もむくも
ふひもれ。思ふも何事をも念ふも
よりわいのる。法回も也。言一。無て。近き
ぬ。それより。つて。六道の岐。は。け。路の傍
より。いつ。さ。僧。比。湯。杖。と。つ。さ。出。立。て
居。る。退。く。進。く。ま。り。て。是。六。道。能。化

乃大井。く。て。ゆ。く。ん。と。心。ハ。地。底。井。こ
ぬ。り。と。苦。人。あ。る。退。く。解。く。バ。む。と。ハ。ふ
う。も。あり。度。事。り。り。極。重。惡。人。を。他。方。便。推。称
泥。泥。得。生。極。樂。と。ふ。く。ハ。ゆ。と。く。ゆ。く。欲
地。底。の。回。善。人。是。妙。果。の。中。に。あり。佛。は。安
ん。で。お。し。め。う。へ。う。の。心。ハ。退。之
と。ひ。も。り。て。回

不思善不思惡正當無所時那箇是弥

陀如來本有淨土

地無指頭と建て西ふじ

退之曰

本來無東西何處有南北

地無芥とくふのよ湯杖あるはと

十方皆佛土但此之所生

仁の意進不到といふ所経曰

今此三界皆是我有其中衆生悉是

吾子此等位不及

退之曰何の乾屢擲我父母より候我

りて云ふりてさうあか今又云ふゆせん

地無芥とくふのよ湯杖あるはと

なり道ハ有きよとて此は眞高以

離ちて始もうく終りもあ

子此迹よなりとらいつと天化の肉と

お極の位下とかりんば乾坤の介と

是と極樂世界といふもぬく死もな

といふ事し経より曰

諸行無常是生滅法生滅滅已寂滅
為樂

世文より云く、工更せハ涅槃此處より云く

退く事なく思案して曰

法行無常是生うつり界うつハ

寂滅為樂と云く（けくや）

地苑并合掌して

あゝいとも滅法界より云くは

諸行無常乃果と云かん

一心を乱るを何法に云く

退之頭と揮て曰法の寂るれなく

業因より云く

進も我代より云く諸のそるハ

久あくとわたりなまや

地苑并也并

清うとそそくハ行々法乃道

先あくはああうそあふ

匠之とりわへは又

くてもあく清くもせぬあふ

茶屋も酒屋もところふあふ

地蔵井

味もさくおまき道の道は

ちや屋と酒やとなつてあふん

匠之とりわへは又

くてもあくおまき味もさく

唯つうばハ賊屋よとつて

地蔵元今ハもてあつういあひてこまハ佛れ

慈悲あれどもそあゆともいともは過

してあふの衆生と海度もれ地蔵れつ

えこあふつれハ後とまといふとあふ海が

やうあつ圍提のあふあふの魔訶たふあ

一ハカドぬそとて湯杖と云うけ過ぎ
 の内に入扉とて吐きもたけいも出
 るをいへん退之よりいふこと四苦は先達と
 共ひ地へ一歩中とていへん後よりいへん
 と云ふ六道のわづかにいへん此室は有
 いと見えそよ他とていへん身命と云ふ
 一冥官とて告ぐとていへんふとていへん
 一

右ハ十五此處も指し候よりいへんとて先年獲
 せの唐人写していへん後よりいへんお東より
 又一説よりいへん法大師地獄よりいへん人より
 一とていへんもいへん

田舎外集終

